

平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成22年11月12日

上場取引所 大

上場会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
 コード番号 5742 URL <http://www.nic-inc.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部 管理グループ長
 四半期報告書提出予定日 平成22年11月15日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 西川浩司

(氏名) 藤井透

TEL 076-425-0738

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	1,403	4.5	△95	—	△90	—	△56	—
22年3月期第2四半期	1,342	△60.7	△102	—	△94	—	△50	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	△1,040.88	—
22年3月期第2四半期	△933.05	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	3,618	2,730	75.5	50,118.29
22年3月期	3,535	2,843	80.4	52,178.61

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 2,730百万円 22年3月期 2,843百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	700.00	700.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	800.00	800.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,454	74.0	68	—	71	—	40	—	751.95

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「2.その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 55,000株 22年3月期 55,000株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 511株 22年3月期 511株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 54,489株 22年3月期2Q 54,489株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点においては、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実施の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
【第2四半期累計期間】	7
【第2四半期会計期間】	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	11
生産、受注及び販売の状況	11

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、中国を中心とした新興国の景気上昇による生産の増加、企業コスト削減や在庫調整の進展による景気回復傾向が見られるものの、急激な円高の進行や株式相場下落、欧米の景気減速の影響、雇用環境の悪化等もあり、全体として景気回復の動きは鈍く、先行きについては不透明感が高まりました。

このような状況の中、当社を取り巻く環境は依然厳しく、生産は増加傾向にあるものの、積極的な設備投資の高まりまでには至らず、一般的に製造業における設備投資の動きは低調な状況で推移いたしました。

これらの結果、当第2四半期会計期間の売上高は785百万円（前年同四半期比2.1%減）、営業損失は37百万円（前年同四半期は37百万円の営業損失）、経常損失は35百万円（前年同四半期は29百万円の経常損失）、四半期純損失は22百万円（前年同四半期は28百万円の四半期純損失）となりました。

当第2四半期会計期間における各セグメントの状況は、次のとおりであります。

[アルファフレーム部門]

アルファフレーム部門におきましては、「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」の支援ソリューション提案活動を全国展開いたしました。また、アルファフレーム®システムの利用が容易となるよう、本年2月に実施したアルファフレームの価格改定に引き続き、本年5月には366品目におよぶアルファフレーム補助部品（パーツ、アクセサリ等）の価格改定を実施いたしました。「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を利用された顧客からは非常に高い評価を得ており、競合他社からの切替が進んでおります。しかしながら、潜在顧客のなかには未だ現場に余剰人員を抱え、工数削減に積極的に取り組めていない企業も多く存在することから、引き続き需要を掘り起こす活動が必要と考えております。この結果、当部門の売上高は301百万円（前年同四半期比33.4%増）となりました。

[装置部門]

装置部門におきましては、海外におけるフラットパネルディスプレイ（以下「FPD」という。）製造設備投資が復活してきたことに伴い、FPD製造装置用カスタムクリーンブースの受注が順調に推移いたしました。しかし、FPD以外の自動車部品関係などにおいては、来年以降の設備投資計画、引き合いは多いものの、現在の設備投資は未だ低調な状況であることや、当初は計画のあった設備投資の中止や延期等により、当部門の売上高は296百万円（前年同四半期比26.1%減）となりました。

[商事部門]

商事部門におきましては、一部生産の増加に伴い、工業用砥石、油脂類、工具・ツール等消耗品である生産財が回復してきましたが、機械設備投資案件は未だ低迷しており、当部門の売上高は187百万円（前年同四半期比7.1%増）となりました。

平成23年3月期第1四半期に係る経営成績に関する定性的情報については、平成23年3月期第1四半期決算短信（平成22年8月6日開示）をご参照ください。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産・負債・純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ83百万円増加し3,618百万円となりました。これは主に、装置案件の受注量が増加しており、仕入債務の支払いが先行したことにより、現金及び預金が177百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が160百万円、たな卸資産が56百万円増加したことなどによります。

負債は、前事業年度末に比べ195百万円増加し887百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が172百万円増加したこと、生産設備等の取得により長期リース債務が26百万円増加したことなどによります。

純資産は、前事業年度末と比べ112百万円減少し2,730百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上及び配当金の支払いにより利益剰余金が94百万円減少したことなどによります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比べ181百万円減少し、392百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期会計期間の255百万円のキャッシュ・インに対し、当四半期会計期間は57百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは、売上債権の増減による資金の減少額229百万円やたな卸資産の増減による資金の減少額159百万円などの資金の減少があった一方で、仕入債務の増減による資金の増加111百万円などの資金の増加があったことが主な要因であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期会計期間の11百万円のキャッシュ・アウトに対し、当四半期会計期間は21百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは有形固定資産の取得による支出が6百万円減少した一方で、敷金の回収による収入が12百万円減少したことが主な要因であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期会計期間の6百万円のキャッシュ・アウトに対し、当四半期会計期間は3百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは、配当金の支払いによる支出が減少したことが要因であります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績については、本日別途公表のとおり、当初の予想を下回る状況にありますが、平成23年3月期通期の業績予想につきましては、平成22年5月14日公表の予想から修正はありません。

※ 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 簡便な会計処理

イ. 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

ロ. 固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却の方法として定率法を採用している固定資産の減価償却費については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これによる損益への影響は軽微であります。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	396,091	573,586
受取手形及び売掛金	879,747	719,416
商品及び製品	139,185	113,902
仕掛品	102,160	100,589
原材料及び貯蔵品	247,862	218,630
未収還付法人税等	—	46,088
その他	175,388	92,071
貸倒引当金	△75	△68
流動資産合計	1,940,360	1,864,216
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,442,099	1,440,363
減価償却累計額	△828,249	△809,005
建物(純額)	613,849	631,357
土地	456,904	456,904
その他	570,296	561,356
減価償却累計額	△418,985	△434,172
その他(純額)	151,310	127,184
有形固定資産合計	1,222,065	1,215,446
無形固定資産	31,162	37,732
投資その他の資産		
その他	426,154	419,059
貸倒引当金	△1,500	△1,400
投資その他の資産合計	424,654	417,659
固定資産合計	1,677,881	1,670,837
資産合計	3,618,241	3,535,054

(単位:千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	624,359	451,583
未払法人税等	2,102	—
製品保証引当金	3,812	4,547
賞与引当金	34,893	35,303
その他	71,572	80,053
流動負債合計	736,740	571,487
固定負債		
退職給付引当金	115,989	113,815
その他	34,615	6,590
固定負債合計	150,605	120,406
負債合計	887,345	691,894
純資産の部		
株主資本		
資本金	156,100	156,100
資本剰余金	146,100	146,100
利益剰余金	2,457,285	2,552,144
自己株式	△34,410	△34,410
株主資本合計	2,725,074	2,819,933
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,821	23,226
評価・換算差額等合計	5,821	23,226
純資産合計	2,730,896	2,843,160
負債純資産合計	3,618,241	3,535,054

(2) 四半期損益計算書

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	1,342,819	1,403,080
売上原価	1,115,271	1,085,382
売上総利益	227,548	317,698
販売費及び一般管理費	330,383	412,719
営業損失(△)	△102,835	△95,021
営業外収益		
仕入割引	1,101	1,730
助成金収入	6,365	522
還付加算金	—	1,389
その他	1,049	494
営業外収益合計	8,516	4,137
営業外費用		
その他	9	—
営業外費用合計	9	—
経常損失(△)	△94,327	△90,884
特別利益		
賞与引当金戻入額	25,000	—
その他	3,054	—
特別利益合計	28,054	—
特別損失		
固定資産除却損	4,223	361
退職特別加算金	12,201	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	596
特別損失合計	16,425	958
税引前四半期純損失(△)	△82,698	△91,843
法人税、住民税及び事業税	759	1,282
法人税等調整額	△32,616	△36,408
法人税等合計	△31,856	△35,126
四半期純損失(△)	△50,841	△56,716

【第2四半期会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	802,732	785,719
売上原価	679,955	621,195
売上総利益	122,776	164,523
販売費及び一般管理費	159,997	202,495
営業損失(△)	△37,221	△37,971
営業外収益		
仕入割引	511	823
助成金収入	6,365	302
還付加算金	—	1,204
その他	647	207
営業外収益合計	7,525	2,538
営業外費用		
その他	6	—
営業外費用合計	6	—
経常損失(△)	△29,702	△35,433
特別損失		
固定資産除却損	4,193	243
退職特別加算金	12,201	—
特別損失合計	16,394	243
税引前四半期純損失(△)	△46,096	△35,676
法人税、住民税及び事業税	379	446
法人税等調整額	△18,178	△14,059
法人税等合計	△17,799	△13,612
四半期純損失(△)	△28,297	△22,064

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△82,698	△91,843
減価償却費	42,694	42,102
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△78	107
賞与引当金の増減額(△は減少)	△39,074	△409
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△4,028	2,173
製品保証引当金の増減額(△は減少)	△2,809	△735
受取利息及び受取配当金	△107	△94
固定資産除却損	4,223	361
特別退職金	12,201	—
売上債権の増減額(△は増加)	317,008	△160,235
たな卸資産の増減額(△は増加)	169,668	△56,086
仕入債務の増減額(△は減少)	△231,660	172,776
未払消費税等の増減額(△は減少)	346	16,065
その他	△25,903	△79,999
小計	159,782	△155,816
利息及び配当金の受取額	70	94
特別退職金の支払額	△12,201	—
法人税等の支払額	△759	△18
法人税等の還付額	17,786	45,803
営業活動によるキャッシュ・フロー	164,678	△109,936
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△4,000
有形固定資産の取得による支出	△18,968	△15,724
投資有価証券の取得による支出	△2,400	△2,400
敷金の回収による収入	12,694	—
保険積立金の積立による支出	△11,508	△11,508
その他	△695	△71
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,878	△33,704
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△54,142	△37,854
財務活動によるキャッシュ・フロー	△54,142	△37,854
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	89,657	△181,495
現金及び現金同等物の期首残高	432,730	573,586
現金及び現金同等物の四半期末残高	522,387	392,091

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第2四半期会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	304,117	131.2
装置部門	296,947	72.7
合計	601,064	93.9

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

② 商品仕入実績

当第2四半期会計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	品目	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
商事部門	工業用砥石	39,152	133.4
	機械設備	2,347	10.2
	工具・ツール・油脂類	116,963	132.1
合計		158,462	112.5

(注) 1 上記の金額は、仕入価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

③ 受注実績

当第2四半期会計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	290,549	131.0	29,179	142.3
装置部門	533,860	634.2	505,419	318.0
商事部門	226,268	137.4	103,143	238.0
合計	1,050,677	223.3	637,742	286.3

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

④ 販売実績

当第2四半期会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	301,003	133.4
装置部門	296,947	73.9
商事部門	187,768	107.1
合計	785,719	97.9

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第2四半期会計期間		当第2四半期会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
東レエンジニアリング株式会社	52,206	6.5	169,139	21.5
リードケミカル株式会社	261,943	32.6	370	0.0

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。